

# AD/HD 児童と ASD 児童のかけ算習得時に見られる誤り —WISC-IVにおける認知熟達度指標 (CPI) との関連から—

高畠英樹（神戸市青陽西養護学校）

## 問題と目的

わが国の小学 2 年生で学習する乗法学習は九九学習といって、九九を唱えて記憶するという日本独自の学習方法である。

九九習得を情報処理プロセスに当てはめると、九九を唱えて音声として入力し、リハーサルによって、短期記憶から長期記憶への情報処理を行っている。必要なときに情報を取り出して計算に使用している。やがて、九九を唱えなくても九九にあたる答が瞬時に再生できる（これを自動化あるいは自動処理と定義）ようになる。

新規学習である九九学習では、入力から統合、出力までのプロセスに負荷のかかる活動であるといえる。この段階におけるワーキングメモリの役割は大きく、ワーキングメモリに課題のある AD/HD 児童や ASD 児童には、習得に困難が予想される。

そこで、本研究では、九九学習の習得状況（所要時間・正答数・自動化）と WISC-IV による認知特性、とくにワーキングメモリ指標 (WMI) と処理速度指標 (PSI) を 1 つの標準得点として統合した認知熟達度指標 (CPI) との関連について検討することを目的とする。

## 方 法

### 対象

知的に遅れない 2 年生児童 4 名 (AD/HD 児童 2 名、ASD 児童 2 名) であった。なお、事前に研究の説明を本人と保護者に行い、承諾を受けた。

### 課題と手続き

表 1 WISC-IV の結果と九九習得状況

| 児童 | WISC-IV の結果 |      |      |     |     | GAI と CPI |      | 正答数(誤答数) | 所用時間(秒) | 問題を解く様子                   |
|----|-------------|------|------|-----|-----|-----------|------|----------|---------|---------------------------|
|    | FSIQ        | VCI  | PRI  | WMI | PSI | GAI       | CPI  |          |         |                           |
| A  | ※112        | ※129 | 98   | 85  | 115 | ※116      | ※101 | 81(0)    | 381     | 問題への反応早い。枠内に書こうとして時間がかかる。 |
| B  | ※116        | 105  | ※113 | 106 | 124 | 110       | 119  | 81(0)    | 144     | 問題をさっと見て書く。               |
| C  | 110         | ※123 | 104  | 103 | 94  | 116       | 98   | 79(2)    | 277     | 何度も九九を唱えながら解答する。          |
| D  | ※97         | ※84  | 102  | 109 | 102 | 93        | 106  | 80(1)    | 131     | 問題をさっと見て書く。               |

FSIQ:Full Scale IQ (全検査 IQ) VCI:Verbal Comprehension Index (言語理解指標) PRI:Perceptual Reasoning Index (知覚推理指標)  
 WMI:Working Memory Index (ワーキングメモリ指標) PSI:Processing Speed Index (処理速度指標)  
 GAI:General Ability Index (一般知的能力指標) CPI:Cognitive Proficiency Index (認知熟達度指標)  
 ※ : FSIQ は標準得点差が 1.5SD より大きいため、解釈できない。4 つの指標では最も高い評価点と低い評価点の差が 5 より大きいため、単一の指標とみなして解釈できない。GAI は VCI と PRI の差が 1.5SD より大きいため、解釈できない。CPI は WMI と PSI の差が 1.5SD より大きいため、解釈できない。